

中期経営計画における経営目標・経営指標の進捗状況

法人名等	目標の内容・実績				
【法人名】 株式会社さいたまアリーナ	目標	幅広いお客様に感動と満足を感じていただける魅力あるイベントを提供することで、施設価値の向上、高稼働率の維持と利用料金収入の増加を目指す。	安心・安全で快適な施設であり続けるため、施設の点検・修繕を確実に実施し、利用者の安全確保に万全を期すとともに、施設の魅力を維持・向上するためのバリューアップに努める。	さいたま新都心のにぎわい創出を推進することで、魅力あるまちづくりに貢献するとともに、埼玉県の一層の魅力発信の大きな原動力となる。	
		稼働率: 80.0%以上	利用料金収入: 2,400,000千円以上	施設を起因とするイベントの開催に影響を与える重大な事故の発生: 0件	さいたまスーパーアリーナ・けやきひろば・TOIROへの来場者数: 年間500万人以上
【中期経営計画の期間】 令和元年度～令和5年度	各年度の実績	【令和元年度実績】 77.0%	【令和元年度実績】 2,707,588千円	【令和元年度実績】 0件	【令和元年度実績】 約567万人
		【令和2年度実績】 26.0%	【令和2年度実績】 506,806千円	【令和2年度実績】 0件	【令和2年度実績】 約60万人
		【令和3年度実績】 68.5%	【令和3年度実績】 2,192,202千円	【令和3年度実績】 0件	【令和3年度実績】 約177万人
		【令和4年度実績】 73.7%	【令和4年度実績】 2,502,180千円	【令和4年度実績】 0件	【令和4年度実績】 約391万人
法人による自己評価	<p>令和4年度は、令和元年度末から続く新型コロナウイルス感染症が第7波、第8波と猛威を振りましたが、流行株の主体が重症化率の比較的低いオミクロン株へ移ったことなどにより、令和3年度までのように新型コロナウイルス等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が実施されることはありませんでした。さいたまスーパーアリーナでのイベント開催に関しては、適切な感染症対策を講じながらも、1年間を通して人数制限を行うことなく開催することが出来ましたが、イベントの内容等によっては、感染症流行下での開催が困難なものもあり、特に年度前半は令和4年1月21日から令和4年3月21日まで延長されたまん延防止等重点措置の影響もあって、主に企業系イベントのキャンセル等によって稼働率はコロナ前の水準には戻らず、目標値には届きませんでした。</p> <p>一方で、利用料金収入は、単価の高いアリーナの稼働率が高い水準に戻ったことや、イベントの人数制限がなかったことによる駐車場利用の増加などによって、目標値を上回る実績となりました。</p> <p>全体としては、藤井風、米津玄師、Adoなど話題性のあるアーティストによる音楽コンサート、ボクシングの世界統一戦、NBA、世界フィギュアなど世界が注目するスポーツイベント、展示会等の企業系イベントなど多彩且つ注目度の高い、そしてパランスの取れたイベントを誘致することができました。</p> <p>施設は開業から20年超が経過して、老朽化は進行していますが、日常点検等での不具合の早期発見と必要な修繕を的確に行うことで、安全安心な施設の維持に努めました。</p> <p>また、イベントの設営や撤去作業に於いてはコロナ禍の影響でイベント側スタッフの入れ替わりがあり不慣れな状況も散見されましたが、舞台事務室を含め事前、及び現場での指導をより強化しました。また、施設の修繕工事に於いても作業者の安全管理を徹底し、施設を起因とする重大事故の発生はゼロを維持しています。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止対策についても、令和3年度に引き続き感染防止安全計画に基づく施設運営を主催者と連携して実施することで、3万人を超える規模のお客様も安心安全に迎え入れることができました。</p> <p>施設の省エネルギー改修や施設の魅力発信に繋がるフォトスポットの整備も行いました。</p> <p>令和4年度はイベント人数制限は行われませんが、年度前半は左記のとおり、企業系の展示会等を中心に開催見合わせやキャンセルが発生し、さいたまスーパーアリーナの稼働率はコロナ前の水準までは戻りませんでした。さいたまスーパーアリーナの来場者数は、前年度からは倍増したもののコロナ禍前の2/3程度の約208万人にとどまりました。</p> <p>けやきひろばのイベント来場者数は、昨年度に続いて春の「ビール祭り」、夏の「水かけまつり&ワールドフェスタ」といった集客力のある自主企画事業の開催を見合わせることで、クリスマスマーケットや大道芸フェスティバルを再開するなど、前年度からは100万人以上人数を伸ばしましたが、コロナ禍前に比べると7～8割程度の約180万人となりました。</p> <p>今後も感染症動向ほか社会情勢を踏まえ、安心安全を確保したにぎわいづくりについて引き続き工夫してまいります。</p>				